

令和8年9月11日

保護者各位

鳥栖市立鳥栖中学校
校長 北原 哲也

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和8年度全国学力・学習状況調査について

令和8年4月23日、下記のような内容で全国一斉に中学校3年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ次の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
調査問題では、①と②が一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校生徒の姿

(1) 国語について

- ・ 全体の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていました。
- ・ 問題別にみると、「単語の種類や活用」については、全校の平均正答率を大きく上回っており、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えたり、結論を導くために考えをまとめたりすること」については、全国の平均正答率を上回っていました。
- ・ 領域別にみると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全国の平均正答率を上回っていましたが、「書くこと」については、全国の平均正答率を下回っていました。

(2) 数学について

- ・ 全体の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていました。
- ・ 問題別にみると、「反比例の値を求める」「考察の対象を明確にとらえる」「筋道を立てて考え証明する」ことについては、全国の平均正答率を大きく上回っており、全体として基礎・基本の定着がうかがえました。
- ・ 領域別にみると、「数と式」「図形」「関数については全国を上回っていましたが、「データの活用」については、全国の平均正答率を下回っていました。

(3) 英語について

- ・ 今回はC B T方式（タブレットの画面に紙面問題を表示し、解答する試験方式）で実施されました。「話すこと」については、まだ結果が出ていません。
- ・ 「聞くこと」「読むこと・書くこと」の3技能の結果については、全国の平均正答数を大きく下回っていました。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校生徒の姿

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」と回答した生徒の割合は全国平均を下回っており、生活リズムを整え、毎日朝食を食べる習慣を身に付けることが課題です。
- ・スマートフォンやゲーム、動画視聴などに4時間以上費やす生徒の割合は全国平均を下回っていました。
- ・家庭学習（塾等を含む）の時間について、1日2時間以上学習している生徒の割合は、平日・休日ともに全国の半分程度であり、家庭学習の充実が求められます。
- ・「ICT機器を使って情報を整理する（図・表・グラフ・思考ツールなどを活用してまとめる）ことができる」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく下回っていました。
- ・「自分にはよいところがある」に対し肯定的な回答をした生徒の割合は、全国平均を上回っていました。また将来の夢や目標がある」「地域や社会をよりよくするために何かしてみたい」に肯定的な回答をした生徒の割合も全国平均を大きく上回っていました。
- ・「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した生徒の割合は全国平均を上回っていました。
- ・道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っていました。学級活動や道徳の授業を通して、互いのよさを認め合いながら課題の解決方法を考える経験が、生徒一人一人の成長につながっている様子が見えられました。

4 今後の改善策（生徒の力をさらに伸ばすために）

- ・国語においては今後も、学び合い活動を基軸とした授業を継続するとともに、「書くこと」の力を伸ばす学習活動の充実を図っていきます。
- ・数学においては、「データの活用」の領域において、資料を読みとり、根拠を基に考察・説明する学習活動の充実を図っていきます。
- ・英語においては、英語を実際の場面で使う活動や、聞いたり読んだりした内容を自分の言葉で表現する活動を充実させ、4技能をバランスよく育成していきます。
- ・1時間の授業の流れをできる限り統一するとともに、授業のユニバーサルデザイン化を推進します。また、タブレット端末やロイロノートを積極的に活用し、思考の可視化や協働的な学びの充実を図ります。
- ・各教科においてグループ学習を積極的に取り入れ、生徒の自主的、対話的な学習を促すとともに、授業の活性化を図ります。
- ・家庭学習については、生徒一人一人が目標をもち、見通しや計画を立てながら主体的に学習課題に取り組めるよう、課題の内容や提示方法を工夫・改善していきます。
- ・家庭でも次のようなことに心がけてください。

1 家庭での学習時間をつくってください。

【学習時間：学年＋1時間（「家庭学習の手引き」参照）】

- ◎学習する時間や時間帯を決め、取りまわせることで学習習慣を身に付けさせましょう。
- ◎テレビを見る時間やゲームをする時間を決め、長時間にならないようにしましょう。
- ◎学習したことの復習を中心に家庭学習に取り組ませ、学習内容の定着を図りましょう。

2 生活のリズムを整え、お子さんとのコミュニケーションの時間を大切にしてください。

- ◎「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、生活のリズムを整えさせましょう。
- ◎学校での出来事や部活動のこと、読んでいる本の内容などについて話し合いましょう。
- ◎お子さんががんばったことや良くできたことを、積極的にほめましょう。